

- 性フェロモンで対象害虫の交尾を阻害することで発生を抑制
- 薬剤抵抗性を獲得した対象害虫にも有効
- 有機JASに使用できます

茶に発生する
ハマキムシ類の防除に！



チャハマキ
(成虫)



チャノコカクモンハマキ
(成虫)

交信かく乱用性フェロモン剤

ハマキコン[®]-N
《トートリルア剤》

ハマキコン[®]は信越化学工業株式会社の登録商標です。

交信かく乱用性フェロモン剤の詳しい説明はWEBで



茶に発生するハマキムシ類の交尾かく乱剤

ハマキコン[®]-N

有効成分	(Z)-11-テトラデシル=アセトート	69.4%
	(Z)-9-テトラデシル=アセトート	13.7%
	10-メチルドデシル=アセトート	1.8%
	(Z)-9-ドデシル=アセトート	3.7%
	11-ドデシル=アセトート	1.8%
	(Z)-11-テトラデセン-1-オール	0.90%
	安定剤等	8.7%

安全性 人畜毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
魚毒性：この登録に係る使用方法では該当がない

包装形態 20cm 250本/袋、12袋/箱
30m巻 1巻/袋、12袋/箱

特長

- 1 性フェロモン剤の有効成分は微生物等により容易に分解されるため、環境にやさしい防除剤です。
- 2 性フェロモン剤は、殺虫剤と比べても一般的に抵抗性がつきにくいとされています。
- 3 作物への残留も心配なく、輸出用作物にも使用できます。

上手な使い方

使用方法

◆ロープ状製剤

始点 → ← 約10m → ← 約10m →

畑の周りに、約10m間隔で支柱を立て、支柱の間にロープ状製剤を固定してゆきます

緩みにくい結び方

※畑の四隅など、始点と終点の支柱には、かた結びをします

ロープ状製剤は摘採面より上になるようにしてください。

◆ディスペンサー型製剤

10アール当たり150~250本を目安に、8割を均等に、2割を圃場内周辺に設置します

摘採面下10cm位の枝に、引っ掛けるようにして設置します

放任園・庭木対策

圃場周辺に無防除園や無防除樹があるか注意してください。ある場合はあらかじめ防除を徹底してください。また、周辺にバラ科果樹等がある場合には、フェロモン剤を設置してください。

ハマキコン-Nの登録内容

作物名	使用目的	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用方法
茶	交尾阻害	チャハマキ チャノコカクモンハマキ	150~250本/10a (90g/250本製剤)	成虫発生初期 ~終期	本剤を枝にかける またはロープ状製剤の場合、 支柱等を立て、 対象作物の上部に張り渡す
			30~50m/10a (54g/30m製剤)		

上記以外に果樹類に適用があります。使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

使用上の注意事項

- 本剤は、チャハマキ及びチャノコカクモンハマキの各成虫の交尾を連続的に阻害し、交尾率を低下させることによる次世代の密度低下を目的としていますので、これらの成虫発生初期から比較的広範囲の地域で使用することが望ましいです。
- 対象害虫が高密度に存在する場合には状況に応じて天敵に影響の少ない殺虫剤を併用することが望ましいです。
- 本剤は樹木等に巻き付け、対象地帯に均一になるように設置することが望ましいです。また、標準的な使用量は10アール当たり、茶：150~250本もしくは30~50mですが、立地条件や風向、傾斜等により効果が振れる場合がありますので、

諸条件から判断して、周辺部に多めに設置することが望ましいです。

- 設置の際、面積に応じてポリエチレンチューブを切断する場合は、必ず20cm又は1m間隔でヒートシールされている部分を切断してください。
- 外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると有効成分が揮散しますので、必ず使用直前に開封し、使い切ってください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

安全使用上の注意事項

- 本剤は皮膚に対して刺激性がありますので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落してください。
- 危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意してください。

保管上の注意事項

- 火気を避け、直射日光が当たらない冷暗所(5℃以下)に密封して保管してください。

○使用前にはラベルをよく読んでください。 ○ラベルの記載以外には使用しないでください。 ○本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2021年9月現在の知見に基づいて作成されています。

製造・発売元